

会 議 録

| | | | |
|------------------|---|--|-----|
| 会 議 名 | 平成 2 2 年度第 3 回小金井市青少年の育成環境審議会 | | |
| 事 務 局 (担当課) | 児童青少年課 | | |
| 開 催 日 時 | 平成 2 2 年 1 1 月 8 日 (月) 午後 3 時 ~ 4 時 3 5 分 | | |
| 開 催 場 所 | 小金井市役所第二庁舎 8 0 1 会議室 | | |
| 出 席 者 | 委 員 | 遠藤 (会長)、齋藤、橋本、不破、天野、渡邊、長谷川 (代理 : 近藤)、伊藤、土屋 | |
| | 事務局 | 岡部子ども家庭部長、門田児童青少年課長、秋元係長、金城主事 | |
| 傍聴の可否 | 可 | 傍 聴 者 数 | 0 人 |
| 会 議 次 第 | 1 開 会 2 会長あいさつ 3 議 題 (1) 「青少年を取り巻く状況について」の報告 (案) 等について (2) その他 | | |
| 会 議 結 果 | 1 開 会 2 会長あいさつ 遠藤会長 3 議 題 (1) 「青少年を取り巻く状況について」の報告 (案) 及び提出資料について ○事務局から提出資料について説明。 ○各委員から提出資料についての質疑。 (2) 審 議 ○各委員による報告 (案) についての意見 (3) 今後の日程 ○各委員からの意見等をまとめ、訂正案を各委員に送付し、さらなる意見を加え、2 年間の意見内容と審議経過として、最終報告として市長に提出する。 | | |
| 提 出 資 料 | 配付資料 ○次第 ○報告 (案) ○平成 2 2 年度小金井市立小・中学校「特色ある取組」(学校経営推進状況調査から) = 教育委員会学校教育部指導室 ○小金井市放課後子ども教室ニュース = 小金井市放課後子ども教室実行委員会 | | |

| | |
|------|---|
| 提出資料 | <ul style="list-style-type: none">○小金井市社会福祉協議会「小金井ボランティア・市民センター」(ホームページ)と「夏の体験ボランティア」及び情報誌○「生徒指導、家庭教育支援及び児童健全育成に係る取組の積極的な相互連携について」=文部科学省・厚生労働省○「子どもを見守り育てる新しい公共の実現に向けた行動計画(抄)」等=厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課○「心の東京革命」平成22年度10月15日発行(青少年育成協会) |
|------|---|

| | |
|---------|--|
| 遠藤会長 | <p>ほんとうにお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。</p> <p>では本日は、本年度の一応、最後の審議会ということなので、いつものように活発なご意見を頂戴できればと思います。よろしくお願ひします。</p> <p>また、本日は、警察の長谷川課長さんが所用で、代理の近藤さんがお見えになっています。</p> <p>では早速、議題のほうに入っていきたいと思いますが、配付資料の説明からお願いします。</p> |
| 事務局(金城) | <p>それでは、配付資料の説明をさせていただきます。</p> <p>「平成22年度第3回小金井市青少年の育成環境審議会」の次第が一番上にあります。</p> <p>次に、報告(案)ということで、5枚組みのつづりがあります。これが報告(案)になります。</p> <p>続きまして、平成22年度小金井市立小・中学校「特色ある取組」(学校経営推進状況調査から)ということで、教育委員会の指導室で作成したものを配付しています。</p> <p>次に、小金井市放課後子ども教室ニュースということで、小金井市放課後子ども教室実行委員会で作成したものを配付しています。</p> <p>次に、小金井市社会福祉協議会の中にある小金井ボランティア・市民活動センターのホームページからの抜粋です。それと、ボランティアセンターで開催した「夏の体験ボランティア2010」のチラシがあります。</p> <p>その次に、「小金井ボランティア・市民活動センター情報」ということで、毎月1回発行されている情報紙です。</p> <p>それから、6番と7番は一緒になっていますが、「生徒指導、家庭教育支援及び児童健全育成に係る取組の積極的な相互連携について」ということで、文部科学省と厚生労働省の連名で通知が来ている内容のものです。</p> <p>そして最後に、「心の東京革命」の10月15日発行された機関紙です。</p> <p>以上が、配付資料となります。</p> |
| 遠藤会長 | <p>それでは、配付資料については、それぞれ作成機関、作成団体のほうからの内容で、基本的には、皆さん、よく目を通してほしいという</p> |

| | |
|---------|---|
| 事務局(金城) | <p>趣旨で配っただけです。これを見ても、いろんな機関がいろんな形で関与しているのだなというふうに改めて感心しましたが。</p> <p>本日のこの審議会の主たる由来としては、昨年及び今年、年間3回の意見交換の審議会ではございますが。今日が昨年から始まって6回の審議会、この2年間にどういう内容のテーマで審議をして、その審議の内容を行政のほうに伝えるために、審議経過をまとめてみましょうということで前回終わりました。一応、私のほうと、事務局の専ら金城さんのほうで、今までの審議録及び資料などを確認しながら、資料の一番上にあります報告書の(案)というものをつくってききましたので、これについてご意見をいただいて、修正・訂正を含めましてご意見をまとめられれば、今日の最終回としての締めくくりになるだろうということです。では、当日配付させていただきました関係上、文書を朗読する形でお願いいたします。</p> <p>それでは、読ませていただきます。</p> <p>平成22年度小金井市青少年の育成環境審議会報告(案)です。</p> <p>平成22年11月。小金井市長、稲葉孝彦殿。</p> <p>小金井市青少年の育成環境審議会会長、遠藤哲嗣。「(審議委員は別紙名簿のとおり)」という形で、後でつけさせていただきます。</p> <p>当審議会の審議の概要は、別紙「審議項目及び意見等」及び「審議経過」に記載したとおりですが、主として下記の点について活発な意見、提案等がなされましたので、書面にてご報告します。</p> <p>1、青少年健全育成のための環境づくりとボランティア。</p> <p>小金井市の教育環境は、全国的に見ても高い水準にあり、この教育環境を守り、さらに環境を高めるためには、青少年の健全育成のための環境づくりを促進していくことが重要です。</p> <p>そのため、今ある青少年の健全育成の環境を発展させるために、青少年を取り巻く状況として「子どもの安全確保」「遊び場・放課後の居場所の確保」「子どもと親(家庭)と地域」「社会規範意識の向上」等について自由討議し、その中で特に子どものための大人のボランティア活動に注目し、ボランティア活動の内容やボランティアの育成、ボランティアの方々の活躍等、現場の事例を含めた議論を重ねてきました。</p> <p>その結果、今後さらに多くの市民の方がボランティア活動に参加し、「ボランティアの小金井」と言われるようなボランティア活動が一層</p> |
|---------|---|

活発に行われることを期待するという結論を得たところです。

2、ボランティア活動の重要性。

青少年の健全育成のための環境づくりには、大人のボランティアの方の力が大きな原動力となっている現状があり、地域でのボランティアの活躍により、青少年の安全安心が確保されている状況と、小・中学生自身によるボランティア活動が、学校の授業に組み込まれていて地域に出てボランティア活動の実践を行っていること、高校生や大学生のボランティアも児童館等で活動している等の状況があることから、ボランティアの重要性に着目したところです。

なお、現在活動しているボランティアの方以外に、ボランティア活動を希望されている方・考えている方が、地域に多くおられることが考えられます。この、地域で希望されている方がボランティア活動にスムーズに入れるような仕組みづくりや、ボランティア活動への周知、養成等とボランティアに関係する団体・個人等のネットワークづくりがさらに充実されることでボランティア活動が活性化すると考えます。

また、各地域に地域全体の活動を把握できるコーディネーターを養成し、他地域のコーディネーターとの情報交換によって得た情報を、地域活動に活かせることも重要と考えます。

ボランティアの質を高め、量を増やして青少年の健全育成環境を高めることについて大方の異論はないものと思われませんが、行政としては、ボランティア活動が活発になればお金がかかるという点を理解しておく必要があります。

つまり、ボランティアの人材費は0円ですが、呼びかけやPRに必要な広告印刷費や通信費、行事に必要な器材費などの実費をボランティアの個人負担とさせないよう、細かい配慮を忘れずに手当てしていただくことが不可欠だと考えます。

3、市における青少年健全育成の取り組み。

(1) 取り組みの周知。

①市と学校と地域ボランティアが協力した青少年の健全育成のための取り組みなどについて、定期刊行物（市報やホームページ等）で広く市民に広報する取り組みが必要です。

放課後子ども教室、健全育成地区活動、非行防止活動、薬物乱用防止活動等について、できる限り広報に取り組む。

生涯学習課所管の「家庭教育学級」「思春期の子どもを持つ親のための子育て講座」(P連実施)、小金井・国分寺・小平・学芸大学連携の「ボランティアセミナー」等のPR(市報、HP)に取り組む。

市が主催する事業及び市が後援・共催するような事業については、市報等において広報をしている。(市報は毎月1日、15日に発行、市政だより年12回発行、広報掲示板95基に掲示、児童館だより・月刊公民館だより発行、市ホームページへの掲載などを行っている。また、市民が自由に掲載できる市民掲示板、報道機関へのパブリシティ活動、学校等関係機関を通じてのPRなども行っている)なお、紙面等の問題があるが、今後もできる限りのPRに努めることが必要です。

(2) 市内のボランティア活動。

市では、地域の青少年健全地区委員会や子供会連合会の各種ボランティア団体、NPO団体等に協力をいただき、連携・協働して青少年の健全育成のための各種事業等を実施しています。

青少年の健全育成環境の現状と対応策について共通認識を広げるため、地域、学校、保護者、行政(市、警察)等が一堂に会し、交流できる場として、学校運営連絡協議会(学校、地域、保護者)や健全育成地区委員会(学校、PTA、民生委員、体育指導委員、子ども会、町会、地域)等の組織が活動している。また、市には子どもの問題に取り組む審議会として青少年問題協議会、育成環境審議会、児童館運営審議会、健全育成推進協議会等が設置されている。市内官公署連絡協議会、各種関係機関等が情報を共有し、対応しています。

そのほか、社会福祉協議会においては、小学生から社会人の方を対象にボランティア養成や体験ボランティア等の講座を開催しており、「ボランティア・市民活動センター」には、団体は136団体、個人は232人が登録していて、高齢者、障害者、児童福祉等の各種ボランティア活動を行っています。

(3) 教育委員会における青少年の健全育成の取り組み。

①指導室。

小・中学校における授業の中で、「社会貢献活動の充実」等としてボランティア活動が組み込まれていて、ボランティア活動の実践を通じて、社会貢献の大切さを学習し体験させています。

②生涯学習課。

放課後の子どもの居場所としての「放課後子ども教室」を推進して

遠藤会長

おり、健全育成地区委員会、PTA等の地域の方々の協力により行われています。

(4) より一層の充実を目指して。

上記に掲げた各種の取り組みについて、より一層の充実を目指すには、それぞれの関係者に知らせるだけでなく、より多くの市民に各種取り組みの内容をPRして、各活動への協力要請(ボランティア参加)あるいは募金活動なども有効な手段と考えられます。

小金井市の青少年の健全育成体制は素晴らしいと評価されるよう、担当する行政担当の連携強化並びに市民への周知を高めていただくことを強く要請します。

ありがとうございました。

そして、最初に引用している「審議項目及び意見等」というのは、次の2枚の紙に要約してあるわけです。そして最後のページが、昨年度と今年度の審議経過で、議題を抜き出してまとめた経緯だけを綴っています。

まとめの報告書として、こういう1ページ目の初めの3行ですが、毎回詳細な会議録をつくっているの、詳しくはそれを見てもらうしかないわけですが。まとめ上げた項目ごと、あるいは特に述べられた意見などを一覧表にまとめて審議会の報告書にすると。そして、その中でボランティアについての取り組み方、あるいは出た意見など、それから現状の各種青少年関連で取り組んでいる行事を改めてここに記載して、教育委員会における取り組みも、指導室や生涯学習課のほうに報告してもらったことを書いた上で、最後の報告というか、まとめの形をとっている。

考えてみますと、2年前あるいは4年前には、市長あてに、「これをせよ」みたいな提言みたいな体裁でまとめ上げたのですが。表題の違いだけで、今回のも、要するに環境をもう少しよくするために、さらに一層取り組む関係機関同士の連携を図るべきだとか、あるいはボランティアについての呼びかけなども力を入れるべきだと。意見とえば、そういう方向の意見におおむねまとめられるだろうと思うのですが。

一番簡単な報告書というのは、別紙の審議録のとおり、審議会で審議をいたしましたといって、今までの議事録全部を添付して出すというのが一番いいのかもしれませんが、それでは芸がなさ過ぎると。少

なくとも、昨年、今年の審議の結果、特に今年に入って出た意見あたりを柱にして要約したものを書いてみようかと思うのです。

文書としては、1 ページ目は、1 ページ目の体裁でいいかな、表現、そのほかはいろいろあると思いますが。2 ページ目、3 ページ目あたりは、活動の羅列みたいな部分があるので、こういう取り組みをしている、ああいう取り組みをしているということを審議会で調査、確認したという意味でしかなくて、市長さんにこれを伝えて、だから何なのという部分はあるのかもしれませんが。筆の運びで1 ページ目にポイントをまとめて、2 ページ目、3 ページ目、4 ページ目の上のほうまで活動の具体的指摘をして、また最後に違う言い方で、ボランティア活動の充実、小金井の青少年の健全育成体制の向上を目指してくださいと。行政各部署での連携も十分強化することとか、市民へのPR、周知をお願いしたいという形で無理やりまとめてみたという感じが実はするのですが。

全般的にご意見ありましたら、遠慮なくご指摘いただけませんかでしょうか。

門田さん、一応、審議会、今日で最終回ですが。何らかの報告書でもまとまるとしますと、それを執行するその後の、この報告書の使い道というか、あるいは使い方はどんなふうなイメージで考えているのですか。

事務局(門田)

市長に上げるというのと、あと関係課にも渡すことになると思います。審議会の中に出てくる課にも、こういうことだったということで渡すということをイメージしています。

遠藤会長

わかりました。

2 ページ目の下から8行目、「ボランティアの人材費は0円です」というのは、「人件費」と私、原稿で書いたつもりだったが。人件費に直していただけますか。人件費ということですね。人件費はかからないが、いろいろと費用はかかるということ、言わずもがなではありますが、そういうものをボランティアの負担にさせないように配慮すべきだという意見をこう表現してみたものです。

3項目目、2 ページの下から5行目ぐらいの「市における青少年健全育成の取り組み」というのは、これがずらずらと4ページの(3)の「教育委員会における青少年の健全育成の取り組み」というところまで続くのですが。これを本文中に書く必要があるかなと若干思うこ

| | |
|------|---|
| | <p>とは思いますが。審議会が出た意見というのではなくて、むしろここに書いてあるこんなことをしている、あるいはいろいろな地域でやっているということ、この審議会を確認しましたというだけなので、このあたりはだから何だという部分はあまりなくて、できる限りPRに努めようだとか、その程度は出ているのですが。市における全体的ないろいろな取り組みを別紙2の形でまとめて、報告書には意見の部分だけを主としてまとめて、調査、確認できたいろいろな諸行事は、別紙にするというのも1つのアイデアかなとは思いますが。</p> |
| 齋藤委員 | <p>1ページ目の下から2行目は修正されましたでしょうか。「ボランティア活動が一層活発の」じゃなくて、「に」です。</p> |
| 遠藤会長 | <p>「一層活発に行われることを」ですね。</p> |
| 齋藤委員 | <p>ええ。全般的にはそういうことでしょう。委員長さんがおっしゃられるように、3ページの(2)からのところがあえて必要ないかと。</p> |
| 遠藤会長 | <p>こういう取り組みをしているのを市長さんにご存じでしょうねというように、そういう意味になってしまうので、これは文書として一生懸命書くような部分ではないように思うのです。報告書という書面のバランスかもしれません。</p> |
| | <p>実は、ボランティアの実態について、社会福祉協議会や他のグループがあるとか、現状把握をし、その改善策をとということは、まだまだいろいろと調査、あるいは考えなければいけないことはあると思います。やみくもにボランティア、ボランティアといっても、あまり向いていない方々が手を挙げてこられると、ある意味でその活動の邪魔になる部分もあるという意見もありましたが。そういうことは、なかなか文書で書けない部分があります。広くいろいろとPRして活動を促すという、こぎれいな言葉にしかどうもならないように思いました。</p> |
| 伊藤委員 | <p>こうまとめられたのは非常に大変なことだと思うのですが。我々がこうやって検討したのは、要するに子どもの健全育成です。その中で、学校がどうすべきか、地域がどうすべきか、家庭がどうすべきかと思っいろいろ検討してきました、今年度はボランティア活動にどう読んでみて、正直言っいろいろなことがいっぱい出てきて、だから私は、もしできるのだったら、簡単に図で、子どもの健全育成というのが中心で、そこでいろいろな場面があって、今回はボランティアですよと。ちょっと図をどこかで1ページぐらいまとめると、何か非常に見て、ああ、こういうことなのかなということが、また新しい仕事</p> |

| | |
|------|---|
| | <p>になってしまうのですが。</p> <p>これは1ページから4ページまで読んでみてもいろいろなことがいっぱい出てくるので、我々はそうやって検討してきたからわかるけれども、果たして読んでいく人はどうか。これでどうなっているのかなということを、ちょっと感じますけれど。</p> |
| 遠藤会長 | <p>図というのは、具体的にイメージとしては、どんな図のことを伊藤さんはお考えですか。</p> |
| 伊藤委員 | <p>子どもの健全育成ということをもとに真ん中に置いて、そこには家庭、地域、学校などいろいろあると。その中で、ボランティアというのは1つの地域の項目になります。そこへスポットを当てて、そういうボランティアを構成している組織とか活動内容とかというのを四角の中に割ってやって、これを最終的にまだ全体としてボランティア活動については組織とか運営とか人事とか、あるいは費用の問題はこういう問題があるよというようなことを書いていけばわかるような感じがするのですが。</p> <p>なかなか、言うことは簡単だけど、やるというのは大変難しいのではないかと思いますけれど。</p> |
| 遠藤会長 | <p>ありがとうございました。</p> |
| 橋本委員 | <p>聞きたい主なことは、最初のページにあります「ボランティアの小金井と言われるような」ということで、これを読んでいきますと、要するに数字的なものが含まれていないのです。ですから、ぜひ数字的な、どれぐらいのボランティアの人たちが今活動しているかという数字的なものを少し入れていただければ、より1つの目安といいますか。11万の人口の中でどれぐらいになれば「ボランティアの小金井」と言えるのかという、そのあたりの目安があれば。</p> <p>ですから、健全育成地区委員というのも数字は出ますので、そのあたりのことを少し主な、(2)の市内のボランティア活動、さっき伊藤さんが言われた図であらわして、それに数字を加えて。東京都薬物乱用防止小金井地区推進協議会もそうでしょうが。いろいろな人たちがかかわっているという、多分、総数にすると相当な人数になるという状況だと思います。</p> <p>ただ、市長さんは全部知っておられるでしょうけれども、一般の若い人たちは。</p> |
| 遠藤会長 | <p>現状の数字を表現するとしないとでは、大分具体性に違いがあると</p> |

| | |
|---------|---|
| 橋本委員 | <p>思いますね。</p> <p>私も全部足したわけじゃないので、ぜひそのあたりの数字的なもの、人数的な、さっき人件費ゼロというのがありましたけれども、どれだけの人材がとといいますか、ボランティアにかかわっているかということがわかれば1つの目安になるのではないかと思いますので。</p> |
| 遠藤会長 | <p>いきなり現状のスタッフを倍増しろとか、そういうようなあまり無責任な数の目標みたいなことまでは言えないですが。</p> <p>なるほど。数字を入れて具体性を出したらというご意見でした。</p> |
| 橋本委員 | <p>そうですね、そうしていただけると。確かに、具体的には(2)の市内のボランティア活動ですか。</p> |
| 遠藤会長 | <p>そうですね、それぞれの学校運営連絡協議会の具体的な構成メンバーの人数。</p> <p>社会福祉協議会で、さっきホームページの資料が配付されていましたが。社協のボランティアというのは、活動内容としては、どんな活動内容に目を向けたイメージのボランティアなのでしょうか。高齢者、あるいは福祉、家庭とか。</p> |
| 事務局(金城) | <p>まちづくりのNPO法人とか、ボランティアグループとか、また子どもとか青少年の関係、それから高齢者の関係、障害者の関係、子育て、環境、医療、健康、スポーツ、文化・芸術、国際活動、その他の団体等がボランティアセンターに登録している団体となります。</p> |
| 遠藤会長 | <p>そうすると、青少年対象の何らかのボランティア、例えばこの資料の3枚目についている夏休みのボランティア体験とか、そういうこともやっているわけですね。</p> |
| 事務局(金城) | <p>はい。夏休み中ですので、小・中学生が多く。このときですと、100人参加したとのことでした。</p> |
| 遠藤会長 | <p>100人参加して、それは小学校4年生以上、中・高・大学。</p> |
| 事務局(金城) | <p>はい。夏休みなので、小・中・高生が多いと。</p> |
| 遠藤会長 | <p>それで何をしたかという、福祉関連施設などでのボランティア、お手伝い、その実体験をした。これはそういう企画だったのですか。</p> |
| 事務局(金城) | <p>はい、そうです。</p> |
| 遠藤会長 | <p>それもこれで将来のボランティアになるためのガイダンス的な意味はあるかと思いますが。専ら「青少年の育成環境を向上させるためのボランティア」と言っていますから、そういう大人の、高校・大学生でもいいですけども、小・中学生以外の大人たちのボランティアと</p> |

| | |
|---------|--|
| 事務局(金城) | <p>いうイメージでやっているのは、社会福祉協議会ではそういうボランティアというのはないのかな。</p> <p>年に何回かボランティア基礎講座等ということで、募集して開催しています。</p> |
| 遠藤会長 | <p>それで大体参加人数とか、そういうものをもうちょっと突っ込んで聞けば、まとめてあれば突っ込んで教えてもらうこともできそうですね。</p> |
| 事務局(金城) | <p>はい。</p> |
| 遠藤会長 | <p>わかりました。</p> |
| 橋本委員 | <p>国際ボランティアの国際交流ですか。社会福祉協議会でやっているのに参加したことがあるのですが。夏にいわゆる外国の子どもさん、親子が、都内見学を通して交流をするということで、子どもたちと一緒にペアのような形で国際交流をするという1日のスケジュールなのですが。それもやはりボランティアが参加するという形で、私も2回ほど参加したことがあるのですが。それは、ボランティアでも特色があるといいますか。外国の人たちが多くの中で、ボランティアの大切さを体験しました。その場合のボランティアというのは、何か特別に研修を受けたとか、そういうことは問われないのですが。</p> |
| 遠藤会長 | <p>では、そのときなどは、市内に在住している外国人の方が対象ですか。</p> |
| 橋本委員 | <p>そうです。そういうのもさっきの国際交流というのがありましたので、ここには書いていないですが、行っているということです。</p> <p>さっきの資格の研修というのですか。そういうことも非常に大切なのです。</p> |
| 遠藤会長 | <p>やはり、子どもを扱うので、何でもそうでしょうが。安全面といえますか、事故が起こらないようになると、放課後子ども教室もそうなのですが、ボランティアに大人の目が多いほうが子どもの安全を確保できるので、そういったところは非常に大切だと思います。</p> |
| 遠藤会長 | <p>研修というと何か大げさですが、要するに確認事項とか連絡体制とか、そういうことのレクチャーを受けた上で参加してもらうと、こういうのが多いのでしょうか。何か勉強を教えて、研修して、学習しないと資格をもらえないとか、そういう意味ではおそらくないのだろうと思いますが。</p> |
| 齋藤委員 | <p>青少年の育成環境という観点から社会福祉協議会をとらえると、育</p> |

| | |
|------|--|
| | <p>成環境の場の提供としては、檜原山荘という、昔の農家の家を買って、そこに子どもたちが夏に野外活動できるような環境の場の提供をしてくださっています。</p> <p>それから、大型バスの「みどり号」というのは、やはり夏休みは子どもたちを中心に貸し出しを優先的にしているというような事例もあります。直接、社会福祉協議会が何か事業を展開するというよりは、第三者的なかかわり方をして子どもたちの育成環境の場が成熟するように提供してくださっている。応援してくださっていることは、子供会育成連合会ではあります。</p> |
| 遠藤会長 | <p>あまり気がつかなかったですね。社会福祉協議会というと、どうしても高齢者とか障害者のいろいろな活動を中心としたものと。そうですか、わかりました。</p> |
| 齋藤委員 | <p>それからあと、社会福祉協議会として、交通遺児者の資金援助などを行っているとか。要するに、児童・生徒に対しての補助もしている。</p> |
| 遠藤会長 | <p>交通遺児の育英会資金とか、そういうことも。</p> |
| 齋藤委員 | <p>そういう資金提供をしていますね。</p> |
| 遠藤会長 | <p>資金提供とか援助というのはありますよね。</p> |
| 齋藤委員 | <p>社会福祉協議会の場合は項目が多岐にわたっていますので、青少年にかかわる部分を抜き出して見るだけでも結構あるのではないのでしょうか。</p> |
| 遠藤会長 | <p>渡邊さん、何かご意見ありますか。</p> |
| 渡邊委員 | <p>青少年の健全育成にかかわるボランティアとして、大人がそこにかかわるボランティアと、あと子ども自体がかかわるボランティアというふうに、二通りあると思うのです。子どものほうにかかわるボランティアの仕掛けづくりが少ないなというのがあるのですが。今、大きいところのイベントでは、スリーデーマーチに中学生がかかわっていますが、各機関で何かをやるときに、そういうボランティアを募ってやるように仕掛けをつくるという、そういうところがあればよいと思いました。</p> |
| 齋藤委員 | <p>今、言われたみたいに、私もちょっと思ったのは、青少年の、大人のかかわり方と子どものかかわり方と2つの立場があって、例えば大人とすれば、必ずしもボランティアといいながらも、例えば少年野球でも、少年サッカーでも、これも1つの健全育成の環境を整えている人たちなのではないかとか、ガールスカウトもボーイスカウトもそう</p> |

| | |
|-------------------------------|--|
| <p>遠藤会長 齋藤委員 遠藤会長</p> | <p>いう形でのかかわりでしょうから、そういう意味で、ここにはそれが 出て、スポーツ団体などはあまり出てきてないような気がするのです。 もちろん交通少年団とか、いろいろあります。消防少年団とか、そ ういう子どもたちの健全育成に従事している方って結構いるのではな いか。 ボーイスカウトも、結構盛んです。 でも団員が減ってかなり縮小傾向にあるそうですが。 カブスカウト、ボーイスカウトとか。子ども自体の数が減っている ことも影響しているのかもしれませんが。</p> |
| <p>天野委員</p> | <p>土曜日にPTA連合会の集まりがあったのですが。そこでちょっと 出たお話で、ニートになる人たちというのは、要するに人との触れ合 いが少ないというか、家庭と本人なので、どうしても親だけで見えて いるので、人とのかかわりが少ない。ひきこもりではないですが、出て 行くようにならないので、できればボランティアの活動にニートの人 たちが参加していただければという話が出たりしたのです。 前回お話に出たように、保護者の人たちというのは知らない人を使 いたくないということもあると思うので、それはちょっと難しいよう な気もするのですが。まずニートをつくらないためには、やはり小さ いころからボランティア活動に参加させたほうがいいのではないかと 思ったので、そういうことも含めて、ボランティアをなぜしなければ いけないか。その大切さというものを、もう少し言っていったほうが いいのではないのかと、私は今思ったのです。 いろいろな大人の人と触れ合うことが、やはり将来にいいことだと 思うのです。やはり、地域の人に怒られる子ってあまりいなくなった と思うのです。いろいろな人と触れ合って、何かいろいろな人にいろ いろなと言われるほうが、やはり子どものためにもなると思う。</p> |
| <p>遠藤会長</p> | <p>ありがとうございました。さっきの資料を見てよくわかりました。 9月30日付で、東京都の福祉局から各自治体に通知がきているもの で、もとは文部科学省あるいは厚生労働省の関係課長からきている通 知ですが。これは、児童青少年課としては、こういうものをもらって どういうことをしろというふうに読めるのでしょうか。何か、初めの ほうを読むと、いじめや不登校や自殺あるいは児童虐待が増加して、 難しい時代となっていますと。それでというのが、この通知文とい うか依頼文の中身ですが。僕はお国が自治体にこういう文章を出すとい</p> |

| | |
|-------------------------|---|
| 事務局(岡部) | <p>うのも、何か見て、これはこれで勉強になるような気がするのだけれど。これで具体的に何やれとか、そういうことはあまり書いてないですが。</p> <p>何のために、このような文章を出しているのかと思うのですが。</p> <p>国が発信元で、東京都からその依頼文が来ている中で、積極的な相互連携を図るようなというように、連携という意味に私どもとしてはとらえております。</p> <p>確かに、いじめ、不登校、それから自殺、児童虐待というような形では、いろいろな課にまたがっているのかなと思います。児童虐待ですと、どちらかという子ども家庭支援センターが中心になって努めている。それから、いじめとなりますと、どちらかという教育の部門、限定するわけにはいかないのですが、どちらかという教育部門という形です。それから自殺の問題は、福祉関係で実際問題やっていると考えると、やはり福祉、それから子ども家庭支援センターと教育委員会の中で全部が連携をして、少しでもこういうものを認識し、なおかつ、その部分を少しでも減らしていこうというようなことで、連携をとるという形で通知をいただいていると思っています。</p> |
| 遠藤会長 | <p>その強化のために特別国家予算をとったので、お金を配るから使ってくれと、そういうわけじゃないですね。</p> |
| 事務局(岡部) 遠藤会長 不破委員 | <p>予算はついてないですから、そこは確認してはないのですが。</p> <p>不破先生、こういうものはごらんになったことがありますか。</p> <p>ちょっとないです。来ていたのかもしれないのですが。ただ、これまで小金井市にはなかったスクールソーシャルワーカーが、11月1日から研究的な配置ということで、小金井市の拠点校を中心に配置されました。それぞれ担当校も決まっています。その活用について、11月以降の半年間で、どういう活用が図られるか。11月1日から実際に始まっています、学校現場でもスクールソーシャルワーカーをどうやって活用していくかということ、実際に考えています。これも、もしかしたら、こことかわりあるのかなのか、はっきり言えませんが、ここに応えるような形にはなるのかなというのは考えています。</p> |
| 遠藤会長 | <p>そのスクールソーシャルワーカーなるものを、私ちょっと知識がなくてわからないのですが、どういう方がどういうことをなさる予定なのですか。</p> |

| | |
|---------|--|
| 不破委員 | <p>学校現場のそこら辺の認識はまだ、はっきりできていないのですが。スクールカウンセラーはもう配置されています。</p> <p>スクールカウンセラーは、いわゆる子どもの心理面とか保護者の心理面とかのサポートが中心です。</p> <p>スクールソーシャルワーカーは、そこから出た問題をさらに外部機関とつなげていく役割というようなことで、とりあえずは定義されているのですが。ただ、実際問題としては、スクールカウンセラーは、そういう外部機関との連携でも動いている現状もあるのです。ですから、この住み分けをどうやっていくか、効果的な住み分け方をどうするかというのが、課題になってくるのだと思うのです。ですから今、本当に模索している感じで、半年間でよりよい形の活用の仕方を考えていくことになっているのです。</p> |
| 遠藤会長 | <p>スクールソーシャルワーカーというのは、具体的にどういう立場の職歴の方がなられているのですか。</p> <p>学校の先生の。</p> |
| 不破委員 | <p>東京学芸大学の方がうちに配置されています。</p> |
| 遠藤会長 | <p>研究員の先生ですか。</p> |
| 不破委員 | <p>うちの学校には、そういう方が来ています。臨床心理士等、いくつかの資格をうちの方は持っています。</p> |
| 事務局(岡部) | <p>今、通知文の中で3番のところを見ていただければと思うのですが、児童健全育成に当たってというような形で、内容的には最終的なことも見て、学校とのさらなる連携というような感じで、やはり連携をメインにしてというふうに、この通知からするととれます。ちょっと追加で説明させていただきました。</p> <p>この審議会を出ている意見と全く同じなのですね。</p> <p>表書きにしても文科省何とか課長って言って、個人の名前を出さないところが、こういう行政文書が今はやりなのかな。東京都のほうの文章は名前が出ていますね。課長って役職名だけ書いてあって、名前を書かないというのは何か奇異に受けることですね。もう少し素直に読みます。どうも批判がましくてしょうがない。そういう通知です。</p> <p>社会福祉協議会の活動をもう少し深く調査して、報告書の肉付けにしたらと。活動を図示して、もう少し説明の側にも、図をつくってみたらどうか。ほかの、スポーツを通じての現状よりボランティアのことも、当然触れておいたほうがいいのだろうと思うし、大人がやるポ</p> |
| 遠藤会長 | |

| | |
|-------------------------------|--|
| <p>橋本委員 遠藤会長 橋本委員</p> | <p>ランティアと、子どもの参加できるボランティアも非常に意味があるんじゃないかということで、それについてのきっかけ、企画や仕掛けが少な目じゃないかということです。</p> <p>少し違った角度でよろしいでしょうか。</p> <p>どうぞ。</p> <p>この２ページのほうの下の方の３の前にありますように、実費をボランティアの個人負担とさせないよう云々と書いてありますが。聞きたいことは、いわゆるボランティア保険ってありますね。放課後子どもプランのどのような保険なのかということが話題になったことがあるのですが。それは参考のために聞きたいのですが。保険を出している団体というのですか、民生委員も保険に加入していますね。健全育成も加入していますね。あと行事保険がありますね。要するに、春と秋、健全育成のほうですが。それは名簿を出して保険はかけられておりますが、そのあたりのことを、少し参考に知りたいのですが。</p> |
| <p>事務局(門田)</p> | <p>多分それは人数も出てきます。ボランティアの人数、さっき言った人数と保険と。</p> <p>いろんな保険が掛けられて、カンガルーのポケットも保険の問題があります。だから、そういういろいろな保険があるので、範囲もありますし、どこまで保障されているのかという。そのかけ方というのですか。予算のこともですが、参考のために。多分累計すると、いろんな保険でかなり出しているのではないかと思うのですが。</p> |
| <p>齋藤委員</p> | <p>児童青少年課の場合は、地区委員会に関係している行事の関係です。子ども週間行事とか、たこあげ大会、そういったものに対して行事保険をかけています。</p> <p>参加者、子どもとそれから大人のボランティアの方も全部含めた人数を申告して、けがをされたときには通院に応じてとか、それから金額、大きなけがですと、それ以上の保険もあります。通院だけじゃなくて、入院とかが出てくるとそういうことに対する保障もあるような保険に入っています。だから、ボランティアの方にとということではなくて、行事保険ということにかけていて、そこに参加する方とボランティアの方も含めて参加する方の保険という形でやっています。</p> |
| <p>齋藤委員</p> | <p>放課後プランは、子どもそのものにも掛けています。ボランティアの人もかけているが、子どもそのもの。だからそれは学校によって、登録した子どもだけとか、そうじゃなく在籍の児童生徒全員分という</p> |

| | |
|----------------------|--|
| 遠藤会長 | <p>学校もあって、これはまちまちです。ちょっと生涯学習課で聞いてみないとわからないですが。</p> <p>いずれにしても子どもも掛けています。ですから、子どもがけがしたときには、当然、治療費が出てきますし、今度は賠償責任、安全確認している管理人さんについては賠償責任保険もかけてますので、責任を問われたときには、そこからお金が出てきます。</p> <p>子供会は、また共済保険みたいな、子供会保険が別にある。見舞金制度の保険があるのですが。それは、全国子供会との兼ね合いで掛けていますが。あとは、社会福祉協議会でボランティア賠償責任保険というものも掛けています。</p> <p>そうすると、このボランティアの個人負担とさせない中に、かなり大きいものとして、けがをしたときの治療とかそういうことは、おそらく保険の対象にしてあるのでしょうか。文章としてここに書いてもおかしくないですね。</p> |
| 橋本委員 遠藤会長 齋藤委員 | <p>そのあたりをどういうふうに。</p> <p>万一の事故の場合の治療費の保険そのほかと。</p> <p>ここで言っているボランティアの人件費ゼロというのは、これ謝金のことをいうのですか。</p> |
| 遠藤会長 | <p>そうですね。そのつもりで書いてみたのですが。人件費という言い方は変ですか。ボランティアの謝金はゼロに。</p> <p>報酬はゼロという意味ですね。人件費という言い方ちょっと変ですか。ボランティアの報酬はゼロ。ボランティアをやろうともっと広げようと提言しているが、悪いけれどただではないのだということをごここで言っておきたいだけの話です。</p> |
| 橋本委員 遠藤会長 齋藤委員 | <p>ボランティアも時代とともに、有償ボランティアというのですか。そのあたりのところ、区別は難しいでしょう。</p> <p>中間色のものがあるとおかしくないですね。</p> <p>確かにいろいろ事情があって、難しいのですが。放課後子どもプランは文科省と厚生労働省のほうから謝金という形が出てくるのです。1時間あたり800円とか750円とか。</p> |
| | <p>有償ボランティアですが。子供会は全く無償ボランティアです。健全育成もそうです。ただ、その有償ボランティアなのですが。例えば学校別に子ども教室ニュースというのが出ていて、実行委員会形式とそうではないPTAというような、それぞれ学校によって違うのです。</p> |

| | |
|------|--|
| 遠藤会長 | <p>が。そのときに、例えば実行委員会形式でやっている学校の運営費などは、ここには全然ないのです。まさしく、ボランティアの持ち出しになっているのです。</p> <p>このところボランティアの人件費はゼロ円ですがと、あえて書く必要は実はないのですね。</p> <p>要するに、ボランティアに経済負担までもかけるようなことをせずに、必要な費用の手当は行政として考えてほしいと。</p> <p>ここはちょっと直したほうが正確ですね。はい、わかりました。言われないとわからなかった。</p> |
| 橋本委員 | <p>できたらそのことを少し加えていただけるといいのではないかと。手当のところを。保険も必要だということです。</p> |
| 遠藤会長 | <p>保険なども当然。</p> |
| 橋本委員 | <p>手当していただくことが。</p> |
| 遠藤会長 | <p>行政のほうできちっと必要な賠償保険、事故の場合の保険などをきちんと手当をしてやることということです。</p> |
| 橋本委員 | <p>ですからこの後の、通信費、行事に必要な機材、あと保険と並列して書いていただくといいのではないのでしょうか。</p> |
| 遠藤会長 | <p>いきなり、配付して文章を工夫しろとか直せということ自体がちょっと乱暴な議論で恐縮だったのですが。この報告書の案について、今日の今までのご意見を踏まえて、手直しをしてみます。ご意見どおり工夫できかねるところもあるかもしれませんが、できれば今月中ぐらいに再度訂正の案をお送りして、それでさらにご意見あればいただいて、この審議会の2年間の意見内容と審議経過をまとめ上げると。そして、でき次第、最終報告案として市長のほうに提出し、関連課のほうに回していただくと、こういう扱いにしたいと思いますが。では、その辺の意見の確認とか集約とか、あるいは最終的な報告文章あたりは、私と齋藤代理のほうにお任せいただいて、ここから作業してもらうのは事務局のような気がしますが。そういう形で修正及び確認をして、まとめるという方向でやりたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p> <p>(「はい」の声あり)</p> |
| 遠藤会長 | <p>個別に、この辺こう直してほしいとかありましたら、それはそれでご指摘いただいて全く差し支えないと思います。近藤さん、今までのところで何かご意見ありますか。</p> |

長谷川委員代
理（近藤）

いいえ、特になのですが。ある程度全体像が見えたほうが動きやすいのですが。警察では、少年に対するいろいろな活動を社会参加活動ということで行事をやっています。少年柔剣道とか交通少年団とかです。あと、今やっているのは、東京都から景観対策という行事で、落書き消しとか花壇づくり等をやっています。

私どもの前任は八王子のほうにおりまして、各小学校で生産体験ということをやっていました。それは防犯協会の方で田んぼを持っている方がいまして、最初の田植から脱穀まで、最後は餅つきまでやって、その終わった後の正月にどんと焼きをやるとか。そこまでの一連行事でいろいろやった。

子どもの本来の姿ですか。昔は、子ども会形式で地域において非常に参加していただいて、私たちのときも活動はしていたのです。今はなかなか、そういう活動は行政がある程度でこ入れしないとなかなかできないような体質になっています。

私、小金井に来て1年目になります。一番感動したのが、老人クラブの悠友クラブ、1,600何名ぐらいの規模で、それぞれものすごい横の底辺になっている。そこの頂点のピラミッドの1人となった会長さんがおられて、その方が非常によくまとめられているのです。今回の活動も完全ボランティア形式。あとは、友人でボランティアされている方とか、たくさんおられるのですが。ある程度行政が粛々とやっていけば、だんだんそういう形が見えてくるのではないかなと。最初から行政がこうだと決めつけて、全部申告して、こういうふうによりなさいとなると、なかなかできづらい部分があるのです。ほんとにいろいろな人と、防犯協会とかいろいろお話を聞くと、やる気のある方がたくさんいるのです。高齢者のそういう人たちの意見というのを、くみ取って、その人の今まで過去歩いてきた専門分野とか、そういう意見を汲み取って、それでやはり子ども1人じゃ動けないです。大人がてこ入れしてというか。子どもの自発的なものを引っ張って、それで子どもがだんだんそれを乗り越えて大きくなるのだと思うのです。

だから前任では、少年柔道の選手がオリンピックで金メダルをこの間とってきました。それはものすごく一生懸命やるのです。なぜかという、最初はこのぐらいでいいのかと思ったら、どんどんステップアップして行って、どんどん大きくなっていくのです。そこまで私たちは、勝負の世界に勝つための目的ではないのですが。社会参加とい

| | |
|-------------|---|
| 遠藤会長 | <p>う1つの子どもの健全育成というのは、すくすくと横道それないで大きく育ててもらいたいというのが私たちの気持ちです。私どもの土曜日、日曜日だとか、いろいろ夜に泊まりついて、いろいろな子どもの事件を扱うのですが。子どもはもとは悪くないのです。悪くないのだけれど、やはりそういう環境をつくってしまった親に責任がある。環境の責任がある。その辺からまず直していく。</p> <p>確かに小金井の子どもはすごく素直だし、はるかにほかの地区よりもいいと思うのです。これをどうしても学問一辺やりで責めないで、横の友達との輪とか地域の輪を広げていってあげるように、心を広く持たせてあげるような子どもづくりをさせてもらうために、この場で緊急提言じゃないのですが、主張していただければ、また違った活動で大きく飛躍していくのではないかと考えています。</p> <p>貴重なお話ありがとうございます。交通少年団というのは常設の組織になっているのですか。</p> |
| 長谷川委員代理（近藤） | <p>そうです。希望を募って、それで音楽とか、あとは小金井なかよし市民まつりとか、そういうとき制服着て、いろいろな行事に参加してくれる。それで、1つは規範意識というのですか。やっていいことと悪いこと、あと親の言うことをきちんと聞くこと。それが1つの目標だと思うのです。</p> |
| 遠藤会長 | <p>景観対策、落書き消しのことは、この審議会でも、ご披露されていましたが。</p> |
| 長谷川委員代理（近藤） | <p>丁度、都立小金井公園の前の歩道橋がありまして、そこが大分黒のスプレーで書かれていたのです。地元の中学校と一緒に100名ぐらいで、落書き消しをしました。2回目が、西武多摩川線の公園の下のところ。そこを校長先生と生徒と一緒に上から塗って、わからないようにきれいにしました。</p> |
| 遠藤会長 | <p>あと、今度はこの間は、景観対策の第2弾目、花壇です。つくってそこに花を植えたりして、小金井でもやりたいということで東京都からも大分予算をつけてもらえ計画して、商店会経由だとか、武蔵小金井の駅前です。そういうものがやれたらいいと思っっているのですが。まだ道路をつくる拡張工事だとか、いろいろな話が出てるようです。ある程度その話が終わったら、商工会とか学校関係の人と、あと地元の方と相談してやればと思っっています。</p> <p>先ほどの配付資料で、ご質問のある方。小金井市放課後子ども教室</p> |

| | |
|-----------------|--|
| 事務局(門田) | <p>ニュースというのが配られていましたが。この発行者の小金井市放課後子ども教室実行委員会事務局。これはどういう方がやっているのですか。</p> <p>事務局は、生涯学習課になっていると思います。生涯学習課の事業をやっていますので、実行委員は市民の方が入っていたりすると思いますが。事務局は生涯学習課だと思います。</p> |
| 遠藤会長 事務局(門田) | <p>そうすると、どういう範囲にこのニュースを配っているのですか。</p> <p>その辺は、児童青少年課ではわかりません。学校単位で配っているのでは。</p> |
| 齋藤委員 | <p>これは、各家庭にはいってないと思います。</p> <p>どちらかという、「子ども放課後教室」は、子ども放課後プランの委員さんあてに送っている資料だと思います。この実行委員会というのは、その上の団体、小金井市放課後子ども運営委員会の中で、実際に会計処理とかそういうことをするために、委員長とコーディネーターの人と数名で実行委員会を組織してやっていると思います。</p> |
| 遠藤会長 | <p>学校によっては実行委員会が立ち上がってないところあるわけですね。</p> |
| 齋藤委員 | <p>はい。これを見ると東小は、表のページありますが、実行委員会を立ち上げたようですが。まだ実行委員さんを募ってはいないみたいです。実行委員長ができただけで、詳細はまだ決まっていない。第一小学校も今、検討中ということで、二小、三小もそうなのか。PTAが主に今まで活動していますので、これからおいおい各学校で実行委員会形式が出て、PTAとか地域の人とかを巻き込んで、学校の子どもの居場所づくりをしようという雰囲気になるのです。</p> <p>実行委員会が理想的ということで、文科省からきているのですが。当初には小金井では、放課後教室というのはなかったのです。それではいけないということで、各学校から実行委員会が立ち上がってきている。</p> <p>中学校については、文科省からまた別の答申というか、出てきて、学校応援何とか連絡会みたいなのをつくりなさいみたいなものがあるのですが、実際にはまだそこまではいってないみたいです。地域の人たちを巻き込んで、中学校地区を応援するような組織をつくりなさいというのはあるのだが、現実にはまだそこにはいってないです。</p> <p>うちは東小なのですが。多分、東小はこれからではないかなと思います。</p> |
| 渡邊委員 | |

| | |
|------------------------------|--|
| 遠藤会長 | <p>ます。やりたい方はいるのですが、なかなかそこから先が進まないというのが現状のようです。</p> |
| 齋藤委員 | <p>P T A 中心になるとやはり、小学生のお父さん、お母さんたちは、ある意味、人生で一番忙しい時期だから。</p> |
| 遠藤会長 土屋委員 遠藤会長 土屋委員 | <p>しかも、それが平日の放課後でやりなさいというと、なかなか難しいです。やはり地域の定年を迎えられたおじさん、おばさんたちを巻き込むことがほんとは一番いいのかもしれませんが。</p> |
| 遠藤会長 土屋委員 遠藤会長 土屋委員 | <p>そんな気がします。わかりました。ありがとうございました。 こう見ると、ボランティアの受け皿っていっぱいあるのですね。 いっぱいあるのですね。</p> |
| 遠藤会長 | <p>社会福祉協議会もまさしく、これで青少年がリンクされるとすごい活動ができそうな気がするのです。</p> |
| 遠藤会長 | <p>しっかりした団体、組織になっていますから。まさに行政の立場でも何か取りまとめ機関みたいなのが。屋上屋を重ねてはいけませんが。</p> |
| 齋藤委員 | <p>ホームページというかインターネットで、検索していくと、市内のいろいろな団体が出てきます。そうかといって、それはだれかがまとめているわけではなくて、それぞれが活動しているわけです。逆にホームページを持ってない団体だっています。資金的にも難しいとか、それから技術的なレベルがそこにいってないとか。高齢者になると、ましてホームページをつくるという技術的な作業ができない方もいると思いますから。だから、探し出せば相当のボランティア団体があるってことでしょう。</p> |
| 遠藤会長 | <p>そうですね。教育委員会あたりが一番、小・中学校と接点の強いところでしょうけども、どうしても学校だけになってしまいます。教育委員会も、積極的にいろいろとやっていただいているようですが。生涯学習課というのもあります。児童青少年課があります。社会福祉協議会は社会福祉協議会で活動していただいています。</p> |
| 土屋委員 | <p>そのセクションをこういうふうにしろとなると、さっきの子供会ではないですが、各ところに1つずつつくって、P T A の組織みたいな、先ほどの老人会の組織ですか、あれと同じような形にせざるを得なくなってくるのです。</p> |
| 齋藤委員 | <p>だから子供会は今、町会別になっていますが。そもそも、もとの始まりは学校子供会みたいな登校班があって、そこが子供会を組織していたという、初期の段階はそうなのですが。逆に最近また、そういう</p> |

| | |
|------|---|
| | <p>ふうには学校子供会のがいいのかなと思う場合もありますが。でも私立に行っている子どもは入れないとか。いろんな問題点もあるので、必ずしもそれがいいとは言えないのですが。今言われたように老人会とか子供会とか、そういう何とのか、学校を中心とした地域って昔も今もあると思うのです。ただ、皆さんも思うでしょうし、先生方も思うのでしょうか。先生方の勤務体系が、採用が必ずしも小金井市ではないわけで、多種多様なところから来る先生が多いので、その地域の学校になったときに、相当負担がかわいそうだなとか。昔、そこに住んでいる先生なら自分の学校だとかという思いもあるのでしょうか。先生方の負担も増えるかなと思うのです。校長先生なんかそうでしょう。時間があれば必ず顔を出さなければならないとか。</p> <p>例えば、学校の先生って意外と多摩のちょっと離れたところに住んでいますね。そうすると、わざわざその行事のために小金井に出て来るといっても申しわけないなと思うのです。</p> |
| 土屋委員 | <p>我々とか、健全育成に先生方を入れたものだから。かわいそうかなと思って。</p> |
| 遠藤会長 | <p>なるほど。言葉で連携とか組織づくりとかいってもなかなか現実的なことを考えると、そう簡単ではないのだと。</p> |
| 土屋委員 | <p>実際に今、地域で目指して何年も続いているクラブとか、野球クラブとか、そういうところの1つの例というのをもとにして、長く続く。そこには必ず何か持っているのです。ほとんど地域に根差している部分。</p> |
| 遠藤会長 | <p>少年野球は、ずっと何十年も前から同じユニホーム着たチームを見ますね。あれはうまく継承できているのだろうなって。</p> |
| 土屋委員 | <p>また指導者もすごいんですね。</p> <p>私、剣道のほうをやっていて、九州の熊本あたりだと、田んぼをやっているお百姓さんが剣道の先生とか、その地域全体がそういう指導者みたいな感じでやっているのだそうです。だから、誰が見ても逆らわないのです。年寄りに対して逆らう子はいないのです。</p> |
| 遠藤会長 | <p>なるほどね。</p> |
| 土屋委員 | <p>おじさんといっても、先生って言いますね。そのぐらい徹底して根差したものということが言えるのです。だから地元子供会とか、昔そういういい組織があったものだから、そのまま活用できればいい。そこに学校がいろいろな面で少し入ってもらえれば、一番ベターなのか</p> |

| | |
|------|---|
| 遠藤会長 | <p>など。</p> <p>スリム化したほうがいいのですかね。いろんなことやり過ぎている。だから、熱意を持ってやっている人に水をかけるようなことってなかなかできないですね。あんた、もうやらなくていいというわけにいかないの。</p> |
| 齋藤委員 | <p>連携。いろいろなことやっている人がいっぱいいるのだけれど。だからまとめる人がやはりいるか、いないかなのです。声かけをして、まとめていく人が、みんなそれはおっくうだから、面倒だから、ついでれかがやるのではないかぐらいに思っているのではないか。</p> |
| 遠藤会長 | <p>そうですね。そのボランティア組織を、責任を持って動かしていくための難しさですね。だれが社長でも部長でもなくて、やはりそれなりに何とか当番とか。</p> |
| 齋藤委員 | <p>うまく聞き役になって、相談相手役になるような人が要にいて引張ってくれれば、いいのだろうが。船頭がいっぱい多くなってしまくと。</p> <p>でも、前原小学校で校庭遊びやっけていまして、子どもたちと1年以上かかわったのですが。最初のころは大縄跳びなんかができなかった子が、ずっと縄跳びができるようになって、運動反射神経というのが、遊ぶことによって芽生えてきます。家の中でゲーム遊びするよりは、外遊びをさせるというのは、とても大事なのではないのでしょうか。</p> <p>子どもたちは、学校の授業中ではいじめってあまり見えないと思うのですが。そういう遊びの中でいじめをやっているのが見えます。</p> <p>いじわるしているのを、私たちがちょっと注意することによって、そのことの芽を摘めるということもありますので、先生方が気づかない分野というのものもあるのではないかと考えていますが。そういう意味で、地域の人が学校に入って行って、子どもたちと接するということは、大事な場面ではないのかと思います。</p> |
| 遠藤会長 | <p>先生の見えるところと見えないところの使い分けは、子どもは上手ですから。</p> |
| 齋藤委員 | <p>子どもは、先生の前ではいい子でいて、先生の間から離れると、自分の我がが出てきたりして。コートをぬらして、校門の外へ放り投げたりということ、結構あります。それから、年上のものに対しての言葉使いがうまくできてないとか。子どもってどっかそういうところあるじゃないですか。ちょっと甘い顔すると言いたい放題言ってくる</p> |

| | |
|-----------------|--|
| 遠藤会長 齋藤委員 | <p>みたいな。そこを、ぎゅっと1回抑えると、後は何とか。そういう意味では、地域の人が学校に入っていくということはいいことなのです。</p> <p>それから、若い先生が遊びを知らないものですから、結構遊びって子どもたちがやはりわからないのです。</p> <p>この間も、前原小学校の校長先生ともそんな話をしたのですが。ゴム跳びって子ども時代、女の方はゴム跳びってやります。今の子どもたち、それ何なのという。</p> <p>それこそ、今の若い先生でも。知らない人が、かなりいそうです。まりつきなんかも。女の子はまりつきして、スカートでとったりとか。そういう遊びを全然子どもは知りません。</p> |
| 遠藤会長 | <p>では、時間も迫ってまいりましたが。先ほどのとおりの形でまとめ、訂正させていただいて。そして、2年間にわたる審議会の報告文書という形で、今月中にまとめ直したものを再度皆さんにお送りして、ご指摘いただく点はぜひいただいて。それを私と齋藤さんと事務局のほうで、皆さんの意見を反映させた文章にさせていただいて、市長のほうに報告したいと思います。</p> <p>あと何か、今日の議題、そのほか連絡事項ありますか。事務局のほうから。</p> |
| 事務局(金城) 遠藤会長 | <p>ありません。</p> <p>いいですか。2年間皆さんご苦労さまでした。本日はこれで終了します。</p> |

平成 2 2 年度 第 3 回 小金井市 青少年の育成環境審議会

日 時 平成 2 2 年 1 1 月 8 日 (月)
午後 3 時から
場 所 小金井市第二庁舎 8 0 1 会議室

< 次 第 >

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議 題

(1) 「青少年を取り巻く状況について」の報告等について

(2) 平成 2 2 年度青少年育成環境改善活動の結果について

(3) その他